



1. トレンチ4付近 調査前状況



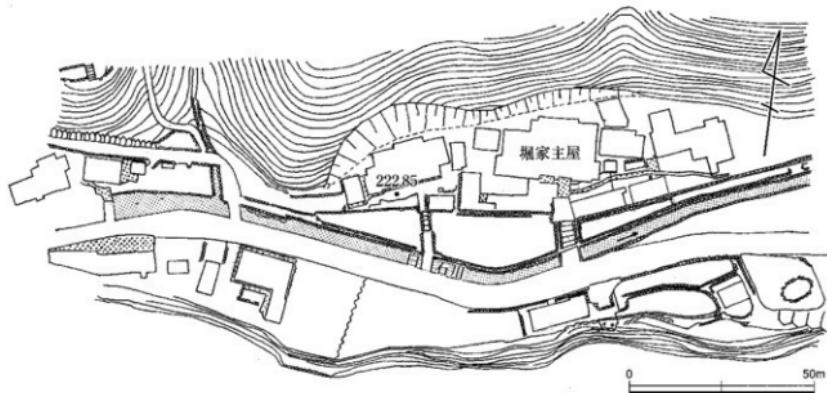
2. トレンチ4付近石垣

第3節 旧堀氏庭園

第1項 はじめに

本発掘調査は、旧堀氏庭園主屋修復事業に伴うものである。まず平成19年度（2007）においては、湯殿・雪隠復元の資料を得るために、それらがあったとされる場所を設定して調査した。また、北側部分において常に水が溜まることから、地下の排水状況を把握するためにトレンチを設定して調査を実施した。

平成20年度（2008）においては、主屋を耐震構造にするためにその基礎となる部分の地下遺構が破壊されるため、その部分の発掘調査を実施し記録保存することにした。なお、この基礎部分については、地下遺構が国指定（名勝）である旧堀氏庭園の重要な構成要素であることから、その影響が最低限になるように文化庁と協議をした上で基礎を設計して、基礎部分で地下遺構が破壊される範囲のみ発掘調査を実施した。



第24図 旧堀氏庭園位置図

第2項 平成19年度（2007）

1. 調査の場所

津和野町邑蟬地内

2. 調査対象の文化財及び調査面積

旧堀氏庭園 37m²

3. 調査内容

①調査方法

旧堀氏庭園の主屋修復事業に伴い、復元するための資料を得るために発掘調査を実施した。調査区は、A区として「勘定の間」付近に設定した。B区は雪隠があったとされる場所に設けた。C区は地盤の排水状況を確認するため、常に水が溜まるところに設定した。

その後、人力による発掘作業を進めた。発掘作業はトレーンチ調査を主として、遺構の保存状況の良好な範囲については部分的に面的な発掘をおこない、土層の堆積状況および遺構・遺物の広がりを確認した。出土遺物は、発掘小区画で層位別に取り上げた。発掘後には、写真撮影・図面実測・遺構測量などをおこなった。

②調査結果

A区

主屋内、南東部の「勘定の間」付近をトレーンチ調査した。1層はタタキ①で、上半の1a、下半の1bに細別され、改修がなされたものと考えられる。柱“い”列の東側張り出し部の埋土である2層より現代ガラス片が出土した。このことから、柱“い”列の東側張り出し部は現代になって拡張されるとともに、タタキ①が形成されたと推定される。

3層下面にはタタキ②である4b層が確認された。以下、調査区西半で確認された5・6層は傾斜した堆積状況を示しており、確実な遺構面であるかどうか確認できなかった。

堆積土のうち、3a・5層がやや赤褐色～橙色系をしており、焼土である可能性も考えたが、炭の出土が少ないとから確実な焼土であるとは断言できない。また出土遺物もほとんどないことから、1・2層以外の各層の時期を比定することは困難であり、享保18年（1733）の火災を裏付けることは、今回の調査の限りではできなかった。

B区

主屋外、南西部付近を発掘した。表土である1層を除去した後に、調査区西辺で石列を検出した。この石列は上の蔵の壁面に残る痕跡を考慮すると、土塀あるいは塀、門の基礎と考えられる。石列以外の礎石は検出しておらず、主屋基礎と同レベルであることも考えると、年代不明の家相図に見える「湯殿」「雪隠」の礎石は最終段階では除去され、石列の石などに転用された可能性が高いと考えられる。さらに「湯殿」「雪隠」の基礎を確認するため遺構面を精査したところ、浅いピットを検出した。ピットの一部には石・コンクリートが埋まっており「湯殿」「雪隠」の礎石抜き取り痕である可能性がある。ただし、一部のピットは深さ約1～2cm程度と非常に浅く、遺構面が削平を受けていると考えられる。

調査区南西部では大型の土坑を検出した。土坑の西半は深さ約15cmと比較的浅く、埋土には大量の石・コンクリートを含む。土坑の東半は深さ約55cmで、埋土に石・コンクリートを含んでいた。土坑の東半は平面円形であることから、桶状の便槽が埋められて腐朽した痕跡であると推定される。

調査区東辺ではL字形に屈曲する溝を検出した。埋土には大量の石・コンクリートを含んでいる。この溝は「湯殿」「雪隠」を構成した建物の雨落ち溝であった可能性があると考えられる。

その他、奥の蔵基礎にともなうグリ石層、雨水の排水構造（レンガ・コンクリート・土管利用）、水道管理設備等を検出した。

C区

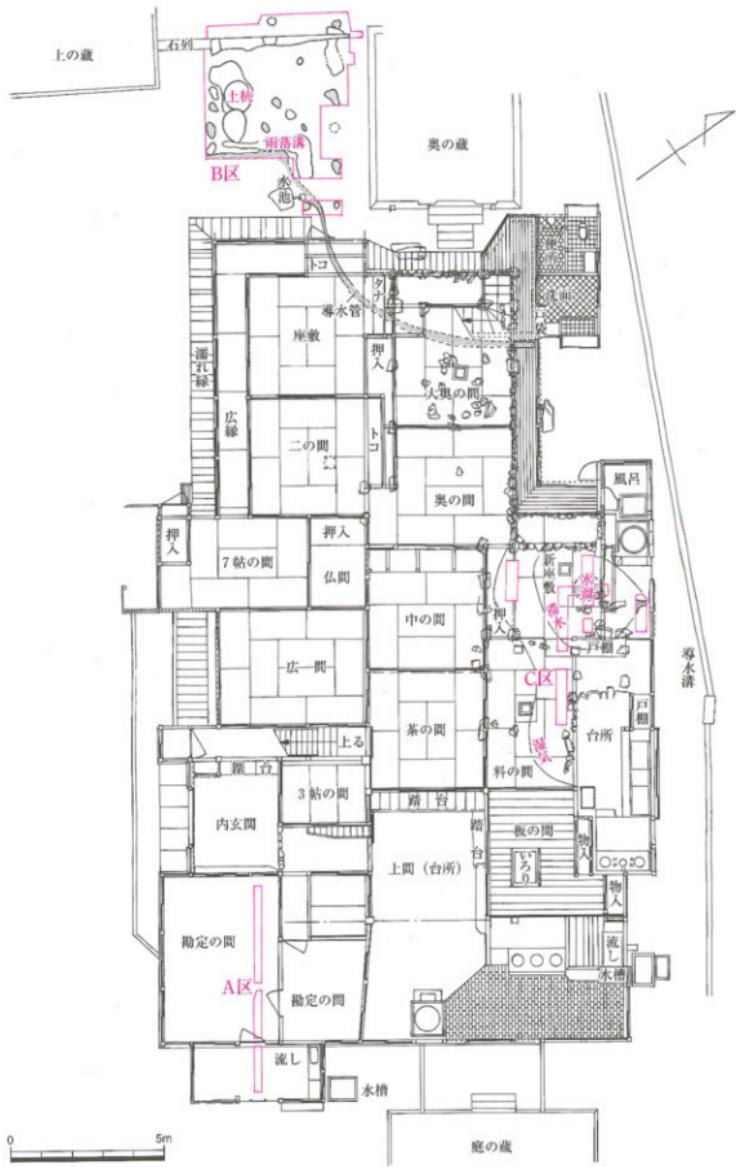
主屋内、北辺中央部付近を発掘した。多くの調査トレンチにおいては地表下約10~20cmで岩盤が検出された。C 5 トレンチ付近では岩盤がさらに深さ約30cmまで深く掘られていた。この穴は推定される直径約90cmで、外周には石を多く含んだ黄褐色系の粘土が貼られており、内側には曲物状の木材痕跡が確認された。穴の内部に湧水が集まる仕組みとなっており、井戸状の水溜遺構検出面が地表直下でないことから、水溜遺構は新座敷増築以前の遺構であることは確実である。

また、C 9 トレンチからは、岩盤を深さ約20cm、幅約30cmに掘り込んだ溝が検出された。溝は、主屋裏山の岩盤から水溜遺構の東側方向へ延びており、湧水も確認できることから、水溜遺構への導水溝である可能性が高い。

なお、水溜遺構の南側にはC 3・C 4 トレンチを設定したが、排水溝等の遺構は確認できず、湧水は自然に浸透していると推定される。

③出土遺物

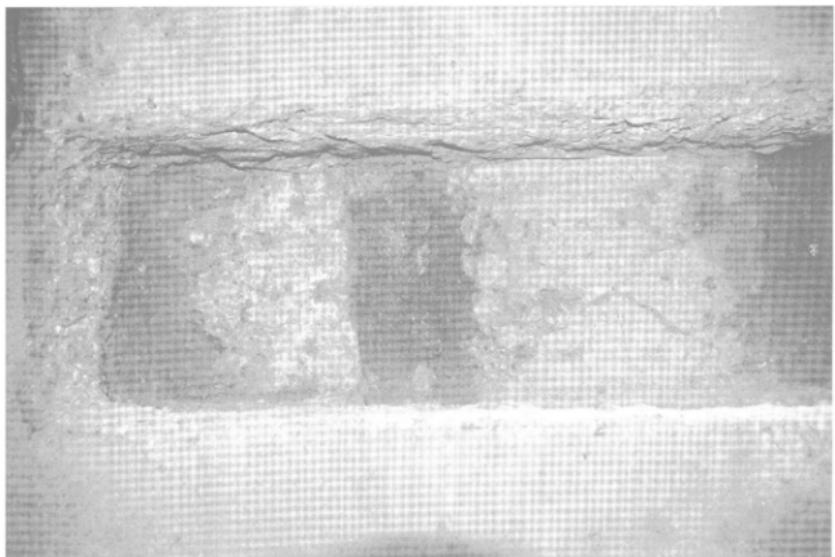
陶磁器類・瓦・金属製品



第25図 旧堀氏庭園調査配置図（平成19年度）



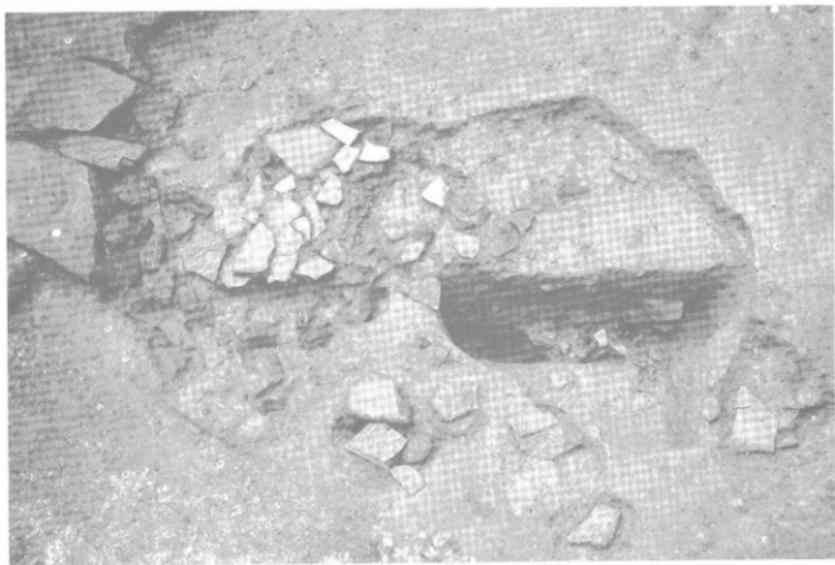
1. A区 発掘状況全景（西より）



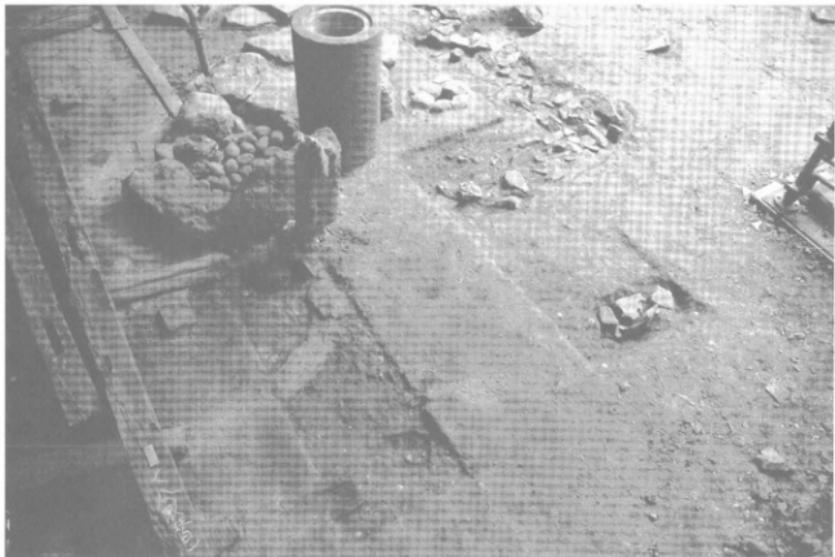
2. A区 タタキ②および木材検出状況（北より）



1. B 1区 発掘状況全景（南西より）



2. B区 14号遺構（土坑）半掘状況（南より）



1. B2・3区 発掘状況全景（北東より）



2. B区 18号遺構（雨落ち溝）の発掘状況（北より）



1. C区 発掘状況全景（南西より）



2. C区 発掘状況全景（北より）